

2022年度 第4回 藤沢市立六会中学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2023年 2月 27日（月）10時～

場 所 六会中学校 第1会議室

出席委員	<p>五十嵐 直美（六会地区青少年育成協力会 会長） 亀山 憲生（六会中学校 校長） 滝内 洋子（学園都市むつあい協力者会議 会長） 平岡 善通（天神地区社会体育振興協議会 会長） 堀田 英二（六会地区自治会連合会 会長） 堀口 陽子（六会地区民生委員児童委員協議会 会長） 榊水 弘（桜ヶ丘自治会 会長） 江添 達男（六会市民センター長） 矢野 佳代子（六会地区担当 CSW） 伊藤 駒子（六会中学校 PTA 会長） 大石 由佳（六会中学校 教頭）</p>
次第	<p>1. 開会 五十嵐会長挨拶 2. 校長より 校歌斉唱 部活動地域移行について 3. 議題：学校評価について （1）六会中学校の現状・対応について（教頭） （2）討議・ご意見 （3）各団体から 4. 校地内（外回り）見学 5. 各委員より 6. 閉会 亀山副会長挨拶</p>
協議内容	<p>* 2. 亀山副会長より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は学校運営協議会初年度ということもあり、学校の現状を皆さんに知ってもらい、地域との繋がりを作る1年だった。 ・今年の卒業生はコロナ禍の3年間で大変ではあったが、将来生きて行く上での貴重な経験となった。 ・卒業式での生徒のマスク着用は個々の判断。教員、保護者はマスク着用。 ・教育的意義を考えると、部活動に関わり続けたいと思っている教員もいるが、今のやり方では、近い将来たちいなくなっていく。部活動地域移行について、市から提示されているものは、案の段階。時代と地域にあったものを検討中。 ・部活動地域移行によって教員の負担を減らし、先生という職業を魅力あるものにできたらと願っている。 ・来年度の学校運営協議会では、主に不登校の子どもたちの問題について取り組んでいきたい。 <p>Q：管理運営団体を探したり、とりまとめたりする手間が先生方の負担になるのではないかと先生方が主体で動くのか。（五十嵐委員）</p>

A：市のいろいろな部署からメンバーが集まる予定。詳細が決まり次第、ご報告させていただきます。(亀山委員)

* 3. 議題

(1) 資料 (2022 年度の学校評価の結果) を参照しながら大石委員より説明。

(2) 討議・ご意見

- ・評価の結果が良い。不登校の生徒に対して、地域は何ができるのか悩んでいる。部活動についても応援したい。(滝内委員)
- ・コロナに関連して、社体協でも使用した体育館の用具の消毒作業が大変なので、学校ではさらに大変だろうと想像がつく。(平岡委員)

Q：進路についての設問で、どの学年の満足度が低いのか。(堀口委員)

A：学年別の集計をしていないのではっきりとはわからないが、コロナの影響で来校いただく機会が減り、1，2年生の保護者に対しては保護者会等で説明する機会が持てなかったのが、特に1，2年生の評価が低かったのではないかと思われる。(大石委員)

- ・コロナ禍だが学校に行くのが楽しいと思っている子どもが多く良かった。(堀口委員)
- ・不登校なのか昼間に子どもを見ると心配になる。(榊水委員)
- ・コロナ禍で先輩、後輩との交流が減り、挨拶などの礼節を学ぶ機会が減ったのではないかと思っている。(伊藤委員)
- ・六会中は生徒数が多いので、不登校の生徒の数もそれに伴い相当数いると思う。今の時代、娯楽が多いので、学校より家の方が楽しいと感じて学校に行きたがらない生徒もいる。不登校の理由に、本人よりも家族に問題があるケースもある。(矢野委員)
- ・学校評価では、子どもと親の捉え方の違いが出ていると思う。保護者には学校生活が見えないので、子どもたちよりも親の評価が低くなるのだろう。(江副委員)
- ・不登校の子どもたちが大人になる前に、どうにかしてあげたい。また、その親も元気なってもらわないと、問題解決につながらないと感じている。カウンセラーとの相性も大切。できるだけ多くの相談できる人、場所があると良い。教員のなり手不足も心配。(五十嵐委員)

5. 各委員より

- ・桜ヶ丘自治会ではペタンク、バドミントンなどのイベントを企画中。(榊水委員)
- ・昨今の風潮でPTA 非加入者が増えている。しかし、学校が抱えている問題を思うとPTAの力が弱くなっていくことに危機感を感じている。PTAは学校と地域との連携がいかに必要かを周りに知らせることが必要と感じている。(伊藤委員)
- ・青少協でも、来年度PTAからメンバーを選出できないといくつかの団体からすでに連絡が入っている。(五十嵐委員)

